

A 地図が関係を表す仕組み

基礎から標準へ | 解答と根拠

記述は、必要な内容と条件がそろえば、解答例と表現が違っていても正答です。練習A～Cは点数を付けず、内容を確認しましょう。

問1 説明の中心

答え：エ

解説 ①の問いを受け、②～⑤で目的・縮尺・記号・使い分けを説明し、⑥で情報選択の仕組みをまとめる。

確認する内容 本文の根拠とともに確認する。

問2 条件と機能

答え：イ

解説 形の類似より、順序と接続という関係を保つことが目的に関わる。間隔の統一や平行配置が必要とは述べていない。

確認する内容 本文の根拠とともに確認する。

問3 定義 8字

答え：記号と意味の対応

解説 凡例は図の記号を理解する規則を示す。「図を読むための規則」は働きの説明で、問いは示す内容を求める。

確認する内容 抜き出しは完全一致で確認する。句読点も本文どおりに書く。

A 地図が関係を表す仕組み

基礎から標準へ | 解答と根拠 | つづき

問4 段落関係

答え：ア

解説 ③は②との対比で始まり、最後に目的が違ってでも選択が必要という共通点へ戻る。正誤や時間順の関係ではない。

確認する内容 本文の根拠とともに確認する。

問5 情報の範囲

答え：ウ

解説 接続と順序を示す図なので、図上の間隔は徒歩距離を保証しない。②で設定した図の目的に照らす。

確認する内容 本文の根拠とともに確認する。

問6 比較から説明する 解答例 69字

解答例：土地を縮小すると細い道や小さな建物を描き分けにくくなり、限られた大きさの中で文字や記号を読めるようにするには、省略や調整が必要になるから。

解説 縮尺があることと、細部が全て載ることは同じでない。図の大きさの制約と読める表現との関係を答える。

別解・許容 解答例と同じ内容なら、語順や表現が違っててもよい。本文にない事実を補わない。

確認する内容 縮小で細部が描き分けにくい／大きさの制約／文字・記号の読みやすさのための調整。字数・指定語句・文末も確認する。

A 地図が関係を表す仕組み

基礎から標準へ | 解答と根拠 | つづき

問7 仕組みを適用する 解答例 68字

解答例：路線図は駅の順序や接続を読み取るために間隔を調整し、土地の地図は距離や方向を表すため、同じ二駅でも目的に応じて異なる間隔で描かれるから。

解説 図の正誤に飛びつかず、保持している関係が違うことを説明する。

別解・許容 解答例と同じ内容なら、語順や表現が違ってよい。本文にない事実を補わない。

確認する内容 路線図の順序・接続／土地の地図の距離・方向／目的の違いによる表現の違い。

字数・指定語句・文末も確認する。

問8 要旨 解答例 71字

解答例：地図の省略は、目的に必要な関係を目立たせて読み取りやすくする働きがあるが、省かれた情報は判断できないため、目的や凡例を確かめて読む必要がある。

解説 ⑥のまとめに②～⑤の説明を戻し、省略の利点だけでも限界だけでもない答えにする。

別解・許容 解答例と同じ内容なら、語順や表現が違ってよい。本文にない事実を補わない。

確認する内容 目的に必要な関係を目立たせる／省略情報の判断は不可／目的・凡例の確認。

字数・指定語句・文末も確認する。

B ためる量と流れる速さ

標準 | 解答と根拠

問1 説明の枠組み

答え：ウ

解説 模型で考える範囲を限定する。⑤も設定した流出量と現実の条件を区別している。
確認する内容 本文の根拠とともに確認する。

問2 数量と因果

答え：ア

解説 残る量の変化は流入量-流出量。容量との差や、流れの待ち時間の説明ではない。
確認する内容 本文の根拠とともに確認する。

問3 対比される量 6字

答え：途中の最大量

解説 時間ごとの流入と流出の差が積み重なるため、最大の貯留量は総流入量だけでは決まらない。
確認する内容 抜き出しは完全一致で確認する。句読点も本文どおりに書く。

問4 働きと限界

答え：イ

解説 水を一時的に残し、後に分けて出す仕組みである。水を消すわけでも容量を増やすわけでもなく、出口を狭くすると早く満杯になる場合もある。
確認する内容 本文の根拠とともに確認する。

問5 実験の条件

答え：エ

解説 原因を出口の違いに絞るには、比較対象となる他の条件をそろえる。⑤は初期量と流入方法の重要性を説明する。
確認する内容 本文の根拠とともに確認する。

B ためる量と流れる速さ

標準 | 解答と根拠 | つづき

問6 時間経過を説明する 解答例 70字

解答例：長い時間をかけて入れる場合は、その間にも出口から水が流れ続けるため、各時刻までに入った量から出た量を引いた残りを小さくできることがあるから。

解説 総量の差ではなく、流入している間に流出できる時間の違いを述べる。「必ず小さい」と一般化しない。

別解・許容 解答例と同じ内容なら、語順や表現が違っててもよい。本文にない事実を補わない。
確認する内容 流入している時間が長い／その間も流出する／差である貯留量が小さくなる場合。
字数・指定語句・文末も確認する。

問7 逆の効果 解答例 71字

解答例：出口から一定時間に出る量が少なくなると、入口から来た水がタンク内に多く残り、流入が続く間の増加が大きくなって容量の上限に早く達する場合がある。

解説 ④を②の差の仕組みと結び付ける。流入条件がある点を残す。

別解・許容 解答例と同じ内容なら、語順や表現が違っててもよい。本文にない事実を補わない。
確認する内容 流出量減少／流入が続く間に残る量が増す／上限に早く達しうる。 字数・指定語句・文末も確認する。

問8 全体の関係 解答例 67字

解答例：今たまっている量に、これから入る速さと出る速さを時間の経過に沿って合わせ、残る量がどう変わり、容量の上限を超えるかを考える必要がある。

解説 ⑥の量と速さの区別を②～④に結び付ける。容量だけでも流入の総量だけでも足りない。

別解・許容 解答例と同じ内容なら、語順や表現が違っててもよい。本文にない事実を補わない。
確認する内容 現在量／流入・流出の速さ／時間経過に沿った量の変化／容量との比較。 字数・指定語句・文末も確認する。

C 列が生まれる仕組み

発展・応用 | 解答と根拠

問1 因果の理解

答え：イ

解説 単位時間あたりの到着と対応の差が蓄積する。休んでいることだけが列の原因ではない。
確認する内容 本文の根拠とともに確認する。

問2 平均の限界

答え：エ

解説 平均は集中する時刻や分布を消して示すため、同じ平均でも列の形は違う。平均によって実際の人数が変わるわけではない。
確認する内容 本文の根拠とともに確認する。

問3 定義を捉える 13字

答え：全体の進み方を制限する部分

解説 列が長い場所と固定的に同じではなく、一連の作業全体の進み方を制限する役割に注目した定義である。
確認する内容 抜き出しは完全一致で確認する。句読点も本文どおりに書く。

問4 具体例の関係

答え：ア

解説 ④の概念を⑤で時間と改善に伴う変化へ広げる。机の追加の必然的成功や数値計算ではない。
確認する内容 本文の根拠とともに確認する。

問5 説明の評価

答え：ウ

解説 ④の後続工程、③の到着分布などが未検討。机が二つでも対応能力や全体の待ちが単純に倍・半分とは限らない。
確認する内容 本文の根拠とともに確認する。

C 列が生まれる仕組み

発展・応用 | 解答と根拠 | つづき

問6 時間のずれ 解答例 65字

解答例：対応中に到着が上回った時間の分だけ待つ人がたまっており、到着が減った後も、すでにできた列の人への対応を順に終える時間が必要だから。

解説 現在の到着だけではなく、過去に積み上がった待ち人数を処理する必要を述べる。

別解・許容 解答例と同じ内容なら、語順や表現が違ってよい。本文にない事実を補わない。

確認する内容 到着が対応を上回った時間／待つ人の蓄積／到着後も順に対応する時間。 字数・指定語句・文末も確認する。

問7 局所と全体 解答例 73字

解答例：来場確認が速くなっても、一か所の資料受け渡しで対応が追い付かず待つ人が増えると、待つ場所が移るだけで、一連の手続きを終える時間は短くならないから。

解説 ④の順序と⑤の全体時間の違いを結ぶ。一つの列の短さを、全体の改善と同一視しない。

別解・許容 解答例と同じ内容なら、語順や表現が違ってよい。本文にない事実を補わない。

確認する内容 確認が速くなる／後工程の対応不足／待ち場所の移動と全体時間。 字数・指定語句・文末も確認する。

問8 仕組みを調べる 解答例 70字

解答例：時間ごとの到着人数と対応人数を記録し、入口から展示室までの作業順序に沿って各作業の時間と待つ場所を分けて調べ、流れを制限する部分を確認する。

解説 ②・③で到着と対応、④・⑤で工程を扱う。総人数だけ、列の長さだけという記録では不足する。

別解・許容 解答例と同じ内容なら、語順や表現が違ってよい。本文にない事実を補わない。

確認する内容 時間ごとの到着と対応／順序と作業別時間／待つ場所・制限部分の把握。 字数・指定語句・文末も確認する。

D 辞書が意味を分けるまで

実力確認テスト | 解答と根拠 | 100点満点

配点のあるDのみ100点満点です。記述は内容ごとに部分点を付け、同じ不足を二重に減点しません。字数・条件も確認します。

問1 説明の中心〔8点〕

答え：ア

解説 ①で成立を問い、②～⑤で分類と説明を示し、⑥で利用時の当てはめへつなぐ。意味の消滅や暗記効果の説明ではない。

採点の目安 正答8点。

問2 具体と抽象〔8点〕

答え：ウ

解説 例は文脈による意味の違いを並べて示す。使用の善悪や成立年代を証明するものではない。

採点の目安 正答8点。

問3 方法の役割〔8点〕 17字

答え：意味の違いを確かめる一つの手掛かり

解説 「一つの」が重要であり、置き換えだけで全てを明確に区分できるという説明ではない。

採点の目安 完全一致で8点。句読点も本文どおりに書く。

問4 比喻と説明〔8点〕

答え：イ

解説 区分は違いを示すが、関連がなくなるわけではない。既知から未知を推し量る働きを説明する。

採点の目安 正答8点。

問5 説明の範囲〔8点〕

答え：エ

解説 ⑤の利点と負担を両方含める。区分数だけで辞書の良し悪しや個々の理解を決めない。

採点の目安 正答8点。

D 辞書が意味を分けるまで

実力確認テスト | 解答と根拠 | 100点満点 | つづき

問6 複数段落を統合する〔20点〕 解答例 69字

解答例：用例の違いを分ければその文に合う意味を選びやすくなり、使い方のつながりも示せば、知っている意味を手掛かりに初めての使い方を考えられるから。

解説 分類は単に箱を増やすことではない。違いを選ぶ働きと、関連から広げる働きを分けて答える。

別解・許容 解答例と同じ内容なら、語順や表現が違ってよい。本文にない事実を補わない。
採点の目安 違いの区分で意味を選ぶ10点／つながりから未知の使い方を考える10点。内容点を合計後、字数・指定語句・文末などの形式不備があれば2点減点する（0点未満にしない）。同じ不足を重ねて減点しない。

問7 過程を比較する〔20点〕 解答例 74字

解答例：作るときは多くの具体的な文から共通点を取り出して意味の説明にまとめ、読むときはその説明を今読んでいる具体的な文に当てはめるという向きが逆になること。

解説 具体例から共通の説明へ、説明から具体例へという方向を明示する。「並び順が逆」としない。

別解・許容 解答例と同じ内容なら、語順や表現が違ってよい。本文にない事実を補わない。
採点の目安 作成時の具体→共通説明10点／利用時の説明→今の具体文10点。内容点を合計後、字数・指定語句・文末などの形式不備があれば2点減点する（0点未満にしない）。同じ不足を重ねて減点しない。

問8 適用と根拠〔20点〕 解答例 74字

解答例：「軽い」が何を修飾するかと前後の文脈を確かめ、返事に近い用例や他の意味区分を比べるとよい。見出し語が同じでも最初の説明が当てはまるとは限らないから。

解説 対象、文脈、用例を照合し、説明を具体的な文へ戻す。辞書の誤りと決めるのではない。

別解・許容 解答例と同じ内容なら、語順や表現が違ってよい。本文にない事実を補わない。
採点の目安 修飾対象・文脈の確認6点／近い用例・意味区分の比較8点／最初の語釈が常に適用されない理由6点。内容点を合計後、字数・指定語句・文末などの形式不備があれば2点減点する（0点未満にしない）。同じ不足を重ねて減点しない。